

「いのちを大切にせる教育」に係る令和6年度版リーフレット ～宮崎県いのちの教育週間の取組を中心として～

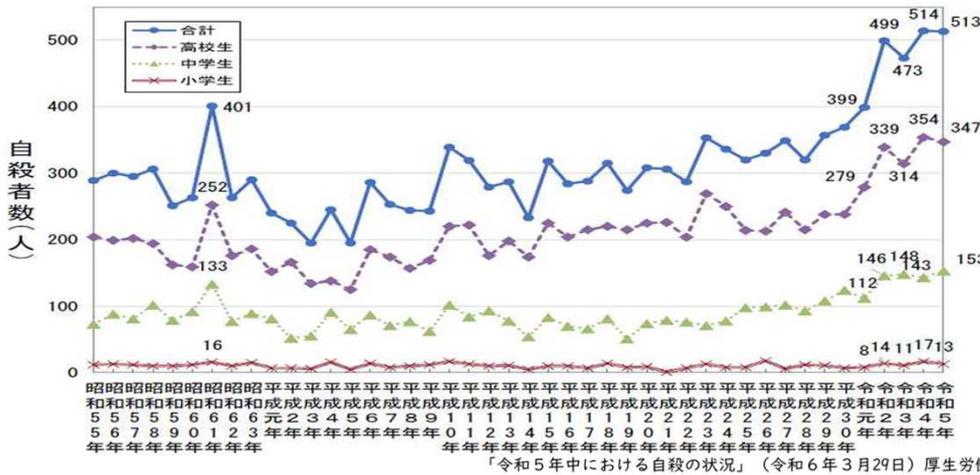
7月1日から7日までは、「宮崎県いのちの教育週間」です！

「夏休み明けに子どもたちが元気に、そして笑顔で登校できるように」として、夏休み前の7月第1週を「宮崎県いのちの教育週間」を設定しています。
各学校で、この週を中心に「いのちの教育」を重点的に行うことで、県下一斉に「いのちの大切さ」について考える機会としています。

目指す子ども像

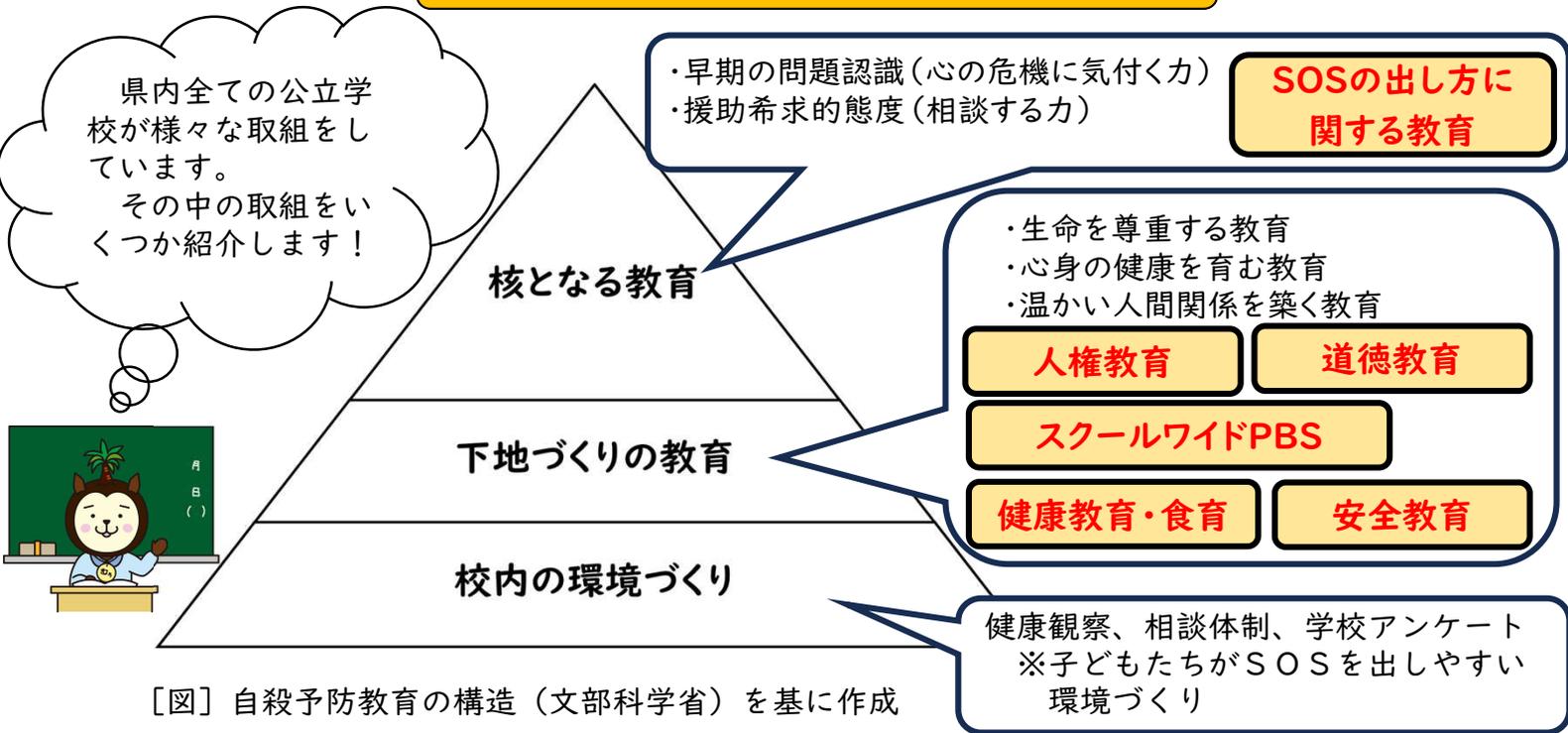
- 生まれてきてよかったと思い、いのちにかかわるまわりの人・ものに感謝する子ども
- 自分のいのちを大切に、いのちいっぱい生きる子ども
- いのちがつながっていることを実感する子ども

子どもたちを取り巻く現状



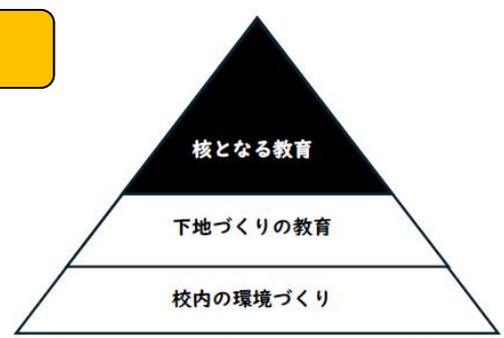
子どもたちの自殺は、コロナ禍から急増しており、令和6年は過去最高の527人となりました。極めて憂慮すべき事態です。
子どもたちのかけがえのない命を救うために、いのちを大切にせる教育を推進していきましょう。

「いのちを大切にせる教育」の構造



[図] 自殺予防教育の構造 (文部科学省) を基に作成

核となる教育



「SOSの出し方に関する教育」とは、「児童生徒が命や暮らしの危機に直面した時、誰にどうやって助けを求めればよいか具体的な実践的な方法を学ぶ教育」とされています。右に示した構造図においては、一番上の「核となる教育」に当たります。
 文部科学省では、少なくとも年1回以上実施するなど、積極的に推進することとしております。

事例1 SOSの出し方に関する教育① 五ヶ瀬町立鞍岡小学校



子どもだけで解決できない問題は、しんらいできる大人に相談しましょう。



不安やなやみがあったときはどうすればよいだろう
(第3・4学年)

取組内容 ※学級担任による授業形式

- 不安や悩みを感じるのは、どんなときか考える。
- 不安や悩みがあったときの対処法について考える。
- 不安や悩みがあることは自然なことで、子どもだけで解決できないときは、専門機関や信頼できる大人に相談する。
- 友達が困っているときは、やさしい声かけをする。

児童の感想

- ・みんな悩みがないと思っていたので、少し安心しました。
- ・様々な解決法があることが分かりました。



事例3 SOSの出し方に関する教育③ 県立高鍋農業高等学校

不安や悩みの解消法(第2学年)

取組内容

- 不安や悩みを感じたり、ストレスがたまったりしたときの対処方法を考える。
- セルフリラクゼーションを体験する。
- 「FELORモデル」を用いたロールプレイをする。
- 相談機関を知る。

※学級担任による授業形式

生徒の感想

- ・実際に体を動かしたり、ロールプレイをしたりして、体感できて理解が深まりました。



SOSの出し方に関する教育 参考資料等

- 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(平成21年3月 文部科学省)
 ※自殺のサインと対応、自殺予防のための校内体制、不幸にして自殺が起きてしまったときの対応など。

<https://x.gd/3WF2s>



- 「子供に伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引き)」(平成26年7月 文部科学省)
 ※関係者間の合意形成と準備、プログラム実施前後の留意点、学校における自殺予防教育プログラムの展開例など。

<https://x.gd/HDQdY>



- 文部科学大臣メッセージ「～不安や悩みがあったら話してみよう～」
 ※ 文部科学大臣から子どもたちへのメッセージ(小学生向け、中学生・高校生向け)

<https://x.gd/0ucBs>



- 宮崎県教育庁人権同和教育課作成の各種資料
 ※SOSの出し方に関する教育のほか、各種リーフレットや指導啓発動画、指導展開例、提示資料、ワークシートなど。

<https://mkkc.miyazaki-c.ed.jp/iinkai/jindoukyouiku/>



事例3 SOSの出し方に関する教育② 高千穂町立上野小学校



心のSOSのサインが出たとき、どうすればよいか考えよう
(第6学年)

取組内容 ※学級担任とスクールカウンセラーによるTTの授業形式

- 不安や悩みを感じたときに体に表れるSOSのサインについて知る。
- SOSのサインに対する自分なりの対処法を考える。
- 相談できる専門家(スクールカウンセラー)について知る。

児童の感想

- ・スクールカウンセラーの先生にも相談できることを知ることができました。
- ・アンガーマネジメントを実践していこうと思います。

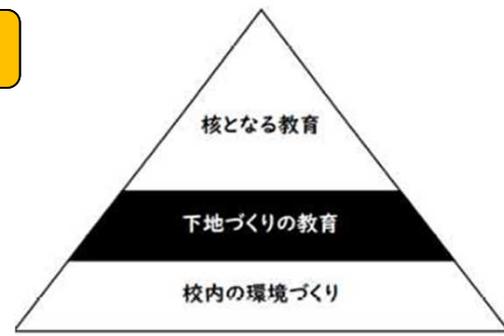




宮崎県「いのちを大切に教育」

下地づくりの教育

学校教育活動において行われている「生命を尊重する教育」や「心身の健康を育む教育」、「温かい人間関係を育む教育」は、教育の下地づくりに当たるものと意識して取り組むことが重要です。



事例4 道徳教育① 椎葉村立椎葉小学校



主題名「命の大切さ」
教材名：「命の詩～電池が切れるまで」(第6学年)

取組内容

- 自分にとって命とは、どのようなものか考える。
- 資料を読み、作者の気持ちを想像させた上で、作者が伝えなかったことは何か考える。
- 「精いっぱい生きる」とは、どういう生き方をするのか考える。
- 「命」に対する考えがどう変わったか発表し合う。

児童の感想

・家族や友達、今までお世話になった人に感謝して、命を大切に生きていきたいです。



事例5 道徳教育② 小林市立須木小学校

主題「命を大切に生きる」
教材名：「あなたの時間にいのちをふきこめば」(第3・4学年)

取組内容

- 医師を目指した少年の頃の気持ちについて考える。
- 58才の時に巻き込まれた飛行機事故後、「これからは与えられた命なのだ。生きることをゆるされた第二の人生を自分以外のためにささげたい」と考えるようになったのは、どんな気持ちからか。
- 命を大切に取る取組を高齢になっても続ける思いについて考える。
- これから自分の命をどのように使いたいかな考える。

児童の感想

・悩みを聞いて、困っている人や悩んでいる人を助けたいです。



事例6 道徳教育③ 都城市立笛水中学校



主題「生命の尊重」
教材名：「あの日 生まれた命」
(第2学年)

取組内容

※ 参観日における保護者参加型の授業

- 「有限性」「連続性」「偶然性」のキーワードを授業の最初に確認する。
- 東日本大震災の日に生まれた娘について、素直に喜ばないお母さんの気持ちについて考える。
- 東日本大震災当時に0歳だった生徒の親たちに、当時の心境を聞く。
- キーワードをもとに、命について考える。

生徒の感想

・命には有限性があり、連続性があることによってつながっていくものだと感じました。



道徳に関する参考資料等

- 道徳教育アーカイブ(文部科学省)
※「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料など。

<https://doutoku.mext.go.jp/>



- 宮崎県教育庁義務教育課ポータルサイト
・「特別の教科 道徳」指導の手引き
※学習指導過程における留意点、指導方法の工夫(7つのヒント)など。

- ・「命や絆を大切に生きる」宮崎県道徳教育読み物資料集
※口蹄疫や鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火などの体験を通して、命や絆の大切さについて深く考える機会を得た体験したエピソード等を題材にした本県独自の道徳の教材展開例や参考資料など。

<https://x.gd/zAX5v>



事例7 ピア・サポート活動 県立宮崎農業高等学校



ピア・サポート活動～傾聴力を身に付けよう～

取組内容

他者とのつながりの大切さについて知ることを目的に、仲間同士が支え合い、助け合えるために、ピア・サポート活動を通して、傾聴する力のスキルアップの方法を指導した。その際、2・3年生のピア・サポーターが進行役として、全校生徒に説明した。

感想

- ・人と話すとき、相手の気持ちを考えて話を聞くことが大切だと思いました。
- ・「FELORの法則」を使うことで、相談がしやすくなると感じました。



事例8 教科での指導（社会科） 宮崎市立生目台西小学校

「宮崎県の肉牛がわたしたちのもとにとどくまで」
(第5学年)

取組内容

「畜産」の内容において、肉牛が牛舎で育てられ、食肉処理場へ運ばれた後、解体、出荷されていく過程において、生産者や解体・検査等に携わる人々が気を付けていくことなどを学習した。その上で、映画「ブタがいた教室」の一部を視聴し、さらに牛や豚をかわいがって育てた人々（生産者）の思いに迫った。

感想

- ・牛や豚などを大事に育てた肥育農家や解体する人、獣医さんなど多くの方のおかげでみんなの食卓に食肉が届くので、命を無駄にしたらいけないことが分かりました。
- ・最初はかわいがって、さいごはごめんねという忘れられない気持ちで出荷することが分かりました。



事例9 総合的な学習の時間 県立五ヶ瀬中等教育学校



いのちをいただく学習（前期課程第2学年）

取組内容

- 活動の目的や流れを確認し、班に1羽ずつ鶏を配る。
- 鶏の首を切り落とし、放血する。
- 熱湯に鶏を浸けて毛を抜く。
- 調理室で鶏を解体する。
- 火起こしをし、解体した鶏を焼いて食べる。
- 後片付けをし、感想を書く。

感想

- ・自分がさばいた鶏を食しましたが、日頃、命をいただいて生きているので、これから自分の命を大切にしていきたいです。
- ・いつも食べている物のありがたさを改めて感じました。



事例10 朝の時間を活用した取組 県立宮崎大宮高等学校



今、この瞬間を生きている「命」について
立ち止まって考えてみよう（第1・2学年）

取組内容

- 朝の読書の時間に、以下の命に関する作品を読んで、感想をまとめる。
 - ・1年：「命」（宮越由貴奈）と「大切な命を守る」作文コンクールの優秀作品
 - ・2年：「命」（宮越由貴奈）と「これから」（沖縄全戦没者追悼式で朗読した「平和の詩」）

感想

- ・命を大切にする、守るということへの考え方に、自分の命や心を守るだけでなく、周りの人を傷つけない、悲しませないということは、分かっていたようで実際にはあまり深く考えられていなかったなあと感じました。



事例11 性に関する学習 みなみのかぜ支援学校



生命誕生と尊重（高等部第2学年）

取組内容

- クイズやビデオを視聴し、生命の誕生や両親の気持ちなどに興味をもつ。
- 母親のお腹の中で、赤ちゃんがどのように育っていくのかを知り、命について考える。
- 同じ重さのペットボトルと赤ちゃん人形を抱っこし、重さの感じ方の違いから、命の大切さを実感する。
- いのちの大切さや他者への関わり方について考える。

感想

- ・赤ちゃんが産まれてうれしいです。
- ・全ての命を大切にしていきたいです。



事例12 安全教育（交通安全教室） 都城さくら聴覚支援学校



安全について主体的に考える（中等部・高等部）

取組内容

- 交通安全教室にて、以下の内容の取組を行った。
 - ・パトカーからの死角体験や停止距離の体感
 - ・車の模型で上から見た図と実物との比較
 - ・自転車安全利用五則の確認、身体障害者福祉法別法、補聴器や人工内耳がイヤホンと間違えられてしまった際の対処法 など

感想

- ・イヤホンと補聴器を間違われたとき、「自分のきこえ方について話す」「手帳を見せる」など上手に説明できるように練習が大事だと思いました。



事例13 健康教育 西米良村立村所小学校



命のはじまりについて（第4学年）

取組内容

- 宮崎県立看護大学の川越靖之教授（産婦人科医）を講師として、これまでの経験を踏まえ以下の内容を学んだ。
 - ・人の命は精子と卵子が会えることから始まり、母親の胎内で大切に育まれていくこと
 - ・心と体のつながり
 - ・情報と犯罪から身を守ること など

感想

- ・赤ちゃんが小さくてもあきらめずに頑張っていることがすごいと思いました。
- ・私の命を生んでくれたおうちの人に感謝しながら生きていきたいです。
- ・私は看護師になりたいので、赤ちゃんが生まれたらずっと見守りたいです。



事例14 安全教育（災害安全・安全連携） 富島高等学校



安全教育推進校の取組

取組内容

- 年間をとおして、学校全体で以下のことに取り組んだ。
 - 安全教育
 - ・防災訓練の実施（年2回）
 - ※災害図上訓練や地域の方と合同の避難訓練
 - ・生徒向け・職員向けの防災講話の実施（通年）
 - ・校内の避難経路、AED等の配置図の教室掲示（年1回）
 - 安全管理
 - ・校内備蓄倉庫の整備（年1回）
 - ・防災ラジオの設置（事務室）
 - ・避難所の運営訓練（年1回）
 - 安全連携
 - ・緊急時における保護者との連絡手段の確立（通年）
 - ⇒災害用掲示板を学校ホームページ内に設置

感想

- ・災害時の対応を学び、防災意識が高まりました。今後も事前の準備を徹底し、冷静に行動したいです。



事例15 スマホとの付き合い方 県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校

「人権で考えるスマホと未来」（全校生徒）

取組内容

- 生徒会執行部の中から、人権教育推進委員を任命し、以下のことを行った。
 - ①人権教育推進委員が集会で人権の話をを行う。
 - ②人権教育推進委員がコーディネーターを務め、各学級で授業を行う。
 - ③全校生徒を集め、先生や保護者を交えた異学年グループを作り、スマホとの上手な付き合い方について協議をした。
- ※保護者に事前アンケートを行い、資料を作成・提示したりして、大人の意見を取り入れる工夫を凝らした。
- ④協議で出た意見を集約し、『いのちを守るWi-Fi』（わ：私中心に考えない、い：一度立ち止まって、ふ：振り返ろう、あ：相手を思いやり、い：命を大切に）というスローガンを作成し、各クラスに掲示することで継続的にスマホとの付き合い方を意識できるようにした。



生徒の感想

- ・スマホは気軽に使えて便利な道具だが、その時の気分に流されないようにしたい。
- ・相手のことを考えて、一度立ち止まってからメッセージを送る必要があることに気づくことができた。



事例16 生命（いのち）の安全教育① 三股町立長田小学校



自分と友達の体について（第4学年）

取組内容

- 普段、自分の体を守るために自分がしていることを振り返る。
- 「プライベートゾーン」について学ぶ。
- なぜ、プライベートゾーンを他人に見せたり、他人のものを見たりしてはいけないのかについて考える。
- 自分のプライベートゾーンを見られたり、触られたりして、嫌な気持ちになったときの対応を考える。

感想

- ・とくべつなところを大切にしたいです。
- ・友達がいやなことをされていたら、助けてあげて、代わりに自分が大声で助けてと言ってあげたいです。



事例17 生命（いのち）の安全教育② 延岡市立港小学校



大切な体を守るためにできることを考えよう

取組内容

- 自分の体は自分だけの大切なものであることを理解する。
- 他の人の体も大切であることを理解する。
- 自分だけの大切なところ「プライベートゾーン」を知る。
- 「プライベートゾーン」のやくそくとして、①見せたり触らせたりしないこと、②他の人の大切なところも見た触ったりしないこと、③人前ではなさないことを理解する。
- 「プライベートゾーン」のやくそくを守らないひとがいた時の対応を、学年ごとに考え、自分や他の人の体を守るためにできることを考える。

感想

- ・「プライベートゾーン」のことを人前で話さないようにしたいです。
- ・「いや」と言うこと、逃げること、大人に相談することがわかりました。



生命（いのち）の安全教育とは

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考えることや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることをめざすものです。

【参考】

- 文部科学省ホームページ「生命（いのち）の安全教育」教材・指導の手引き
- ※ 各段階別（幼児期、小学校（低・中学年／特別支援学級）、小学校（高学年）中学校、高校（大学・一般）や授業展開例等（スライド教材や動画教材）など。

https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html

- 独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズ「子供を性犯罪・性暴力の加害者・被害者傍観者にならないための『生命（いのち）の安全教育』について」（教員研修動画）

<https://x.gd/UtUox>



下地づくりの教育

事例18 スクールワイドPBS 県立高城高等学校

取組内容

- 職員研修：「PBSとは」「場面ごとに期待される行動」
- 生徒会リーダー研修（ワークショップ）
 - ※生徒が考える「望ましい行動」についての話し合い（「生徒の思いを大事にしたい！」）
- 職員研修：講話「高鍋農業高校の実践」
- 職員研修：「分掌ごとのマトリックスのイメージ」作成
- SWPBSの考え方を取り入れた取組
- 職員研修：分掌ごとの「重点項目」の設定
 - ※分掌ごとに出そろった！
- 「高城スタンダード」として設定
 - ※「愛称をつけて取り組みやすく！」
- 生徒への周知
 - ①校是「自立・友情・前進」
 - ②各種委員会と連携
 - ※校是と絡めて自分たちの学校づくり

これまでの高城高等学校の取組のまとめ

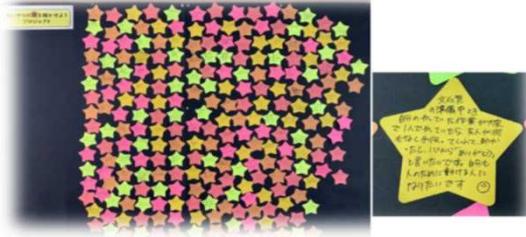
教職員が考える「期待される行動」と生徒が考える「望ましい行動」と合わせたものが「高城スタンダード」として作成

スクールワイドPBS（高城スタンダード）				
場面	委員会	自立（じぶん）	友情（ともだち）	前進（しやかい）
朝の読書	図書	○机の上は本だけにしよう ○静かに読書をしよう	○読書の体験を友人に広めよう	○自ら進んで読書をしよう
授業	学習進路	○ベル開始 ○正しい姿勢で授業を受けよう	○話すときと聞くときを区別しよう	○学んだことを表現しよう
学校生活	風紀文化	○服装を整えよう	○挨拶をしよう	○行事に積極的に参加しよう
清掃	美化放送	○開始時間を守ろう	○用具を大切にしよう ○音で協力してやろう	○+αを心掛けよう
休み時間	保健	○手洗い・うがい・換気をしよう	○思いやりをもって友達と交流しよう	○次の授業の準備をしよう
集会	交通体育	○時間通りに集合しよう ○正しい姿勢で聞こう	○無言で整列しよう	○自分のこととしてしっかり聞こう



生徒の感想

- ・普段、気付くことができない相手の思いやりに気付いて、すごくほっこりできました。
- ・人のためになるために自分から動いて行動することができました。

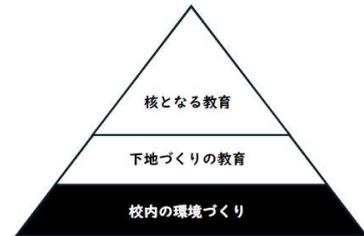


思いやりの星を輝かせよう
プロジェクト
(体育大会)



校内の環境づくり

自殺予防教育を行う上で、子どもたちが安心して学び、生活できる学校環境を整えることが不可欠です。子どもたちと教職員との信頼関係づくり、保健室や相談室など気軽に利用しやすい居場所づくり、子どもたちの些細な言動の変化から、その心理状態に気付けるよう教職員の感性を高めることなども自殺予防教育の「土台」として重要です。



事例19 ゲートキーパー育成研修 県教育委員会人権同和教育課

教職員が子どものSOSを受け止めるための研修

取組内容

- 方法：オンデマンド形式
- 対象：公立学校の全教職員（児童生徒に関わる教職員）
- 講師：宮崎県立看護大学 教授 川村 道子 氏
- 内容
 - ・子どもの自殺の実態
 - ・自殺に追いつめられる子どもの心理
 - ・自殺直前のサインと対応の原則 など

教職員の感想

- ・脳の仕組みや働きなど医学的な説明や人間の本来の姿などについて、分かりやすく、納得のいく話でした。
- ・生徒が相談に来た時、どこまでも生徒に寄り添う傾聴の姿勢は忘れてはいけないと思いました。



事例20 教育相談や職員研修の実施 門川町立草川小学校

悩みアンケートと研修の実施

取組内容

- 悩みアンケートを全児童に実施する。
- 悩みアンケートをもとに、全児童へ個別面談を実施する。
- 児童理解に向けた以下の教職員の研修を実施する。
 - ・悩みアンケートをもとにした「いじめ不登校対策委員会」の実施
 - ・「教職員ができるSOSの受け止め方」（ゲートキーパー育成研修）をもとにした研修の実施

教職員の感想

- ・いじめ不登校対策委員会を実施することで、全職員で指導の仕方など共通理解を図ることができました。
- ・SOSの出し方は、一人一人異なるため、日頃から子どもとよく関わり、小さなサインに気付くことが大切だと思いました。





「宮崎県いのちの教育週間」実践事例から抜粋

小学校の実践事例

- NHK for Schoolの動画を活用して、不審者は見かけて判断できないことを学んだ。
- 参観日において全学年で、発達段階に応じて命の尊さについて道徳科や学級活動の授業を行った。
- 学級通信や学年通信、ホームページなどで、地域や保護者へ「いのちの教育週間」における学校の取組の周知や報告を行った。
- 地元の警察署と連携した活動（4年「非行防止教室」5年「情報モラル教室」6年「薬物乱用防止教室」）を行った。
- 知らない人から声をかけられたときにどのように対処するか、役割演技をするとともに「いかのおすし」の確認や「子ども110番」の建物に逃げることを確認した。
- 人権教育ハンドブックに掲載している題材（「ちがいのちがいがい」）に取り組んだ。
- 全校朝会にて、校長が命の大切さや交通ルールを守ること、ヘルメットの必要性について講話を行った。

中学校の実践事例

- 過去の在校生が遭った交通死亡事故を知り、交通安全宣言を行った。
- 地域で以前、水難事故が起きたことを知り、遊泳のルールや自然の怖さについて考えた。
- 校内放送を使い、「いのちの作文」の優秀賞や全国中学生人権作文コンクールの入賞作文や命に関する物語、詩の朗読を聞いた。
- 生徒総会にて、「いじめのない学校にするためにどうすればよいか」について討議した。
- 修学旅行にて、平和学習や防災教育と関連付けて学習した。
 - ・「東京大空襲・戦災資料センター」で語り部から講話を聴いた。
 - ・「神戸メモリアルパーク」で震災遺構の見学や「人と防災未来センター」で震災について学習した。
- 人権教育ハンドブックに掲載している題材（「魔法のこぼれ」）に取り組んだ。
- 日本臓器移植ネットワークのパンフレットを活用して、臓器移植をテーマにいのちについて考えた。

高等学校の実践事例

- 「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」についてのドキュメンタリーを視聴した。
- 文化祭で、「防災展」を開催し、防災職員や防災グッズの展示、防災食品の試食等を行った。
- 消防本部にて救命講習に参加し、修了者は「救命講習修了証」を交付してもらった。
- 芸能人のYouTube動画を視聴し、命に関する漢字の成り立ちや意味について学んだ。



特別支援学校の実践事例

- （小学部）絵本を基に、命が続いていることを学んだ。
- （小学部）限りある命を精いっぱい生きた方が書いた詩を読み、「せいいっぱい生きる」ことについて考えた。
- （中学部）異性との関わり方や犯罪につながる行為について考え、困ったことがあったら、身近な大人に相談することを学んだ。
- （中学部）聴診器で自分の心臓を聞き、具体的に命について考えた。
- （高等部）SNSの特徴やトラブルについて、動画やクイズを通して学んだ。

外部講師を活用した実践事例

- アカウミガメの保護活動をしている方の話や映像を見ることで、命や環境の大切さを学ぶ学習
- 在籍している職員による闘病体験を通して、「命の大切さ」を考える学習
- NPO法人みんなの暮らしターミナルによる災害から身を守るための行動について学ぶ学習
- みやざき被害者支援センターの方による「いのちの大切さを学ぶ教室」
- さばーとねっと宮崎による性暴力の実態と対策についての学習
- 子どものネットリスク教育研究会によるネットトラブルを回避するための学習
- かたりべぐるーぶ南の風による平和学習
- 県立病院の看護師による「がん」について学ぶ学習
- 動物愛護センターによる「いのちの教育」
- 市民団体「メンタルサポート スローステップ」によるSOSの出し方に関する教育
- 人権擁護委員協議会による「インターネットと人権」についての学習

これまでの実践事例を研修センターHPに掲載しています。参考にしてください。



<https://himuka.miyazaki-c.ed.jp/life/index.htm>